

Ⅲ 小・中一貫教育校整備の対象校

1、対象校の現況（平成23年5月）

（1）萩野小学校

所在地：新庄市大字萩野2574番地の2

創立年：明治9年

児童数：72名

学級数：6学級（普通学級6）

教職員数：13名

E-mail：hagino-e@city-shinjo.ed.jp

学校教育目標：瞳 輝かせ 未来に向け たくましく生きる

萩野の子 ～夢のある小・中一貫校へ向けて子ども
たちが主人公の学校教育に～

学区の概要・児童の実態

本校は、新庄市の北東部にあり、市街地の中心部から10kmほど離れた月山と鳥海山を一望できる標高約200mに位置しています。

学区は、神室山系の山々のふもとに点在する土内・二枚橋・仁田山・萩野・吉沢

・黒沢の6つの集落から形成されています。学区内には、江戸時代以前の主要な街道が残っており、歴史的に伝統のある所で、石動神社などの文化財も豊富に存在しています。

この地区の主な産業は、稲作を中心とする農業ですが、保護者のほとんどは会社勤めをしている兼業農家です。3世代同居をしている家庭がほとんどで、祖父母が養育にかかわっていることが多い状況にあります。学校教育に対する地区民の理解は深く、協力的です。PTA活動においても、全戸加入の形をとっています。子どもたちは、よりよい学校にするために、学校行事などの特別活動を通して、児童会が中心になって主体的に活動しています。例えば、本年度から宿泊体験学習は、全校で神室少年自然の家に宿泊しています。実行委員会を組織し、めあてに向かって高学年が低学年の面倒を見ながら主体的に活動することができました。ふるさと学習では、地区の方に取材をしたり、地区を探検したりするなどの体験を通して、地区の人やものにかかわりながら、萩野の人や文化、歴史、自然について学習しています。



(2) 泉田小学校

所在地：新庄市大字泉田字往還東459

創立年：明治7年

児童数：218名

学級数：9学級（普通学級7・特別支援学級2）

教職員数：24名

メールアドレス：izumit-e@city-shinjo.ed.jp

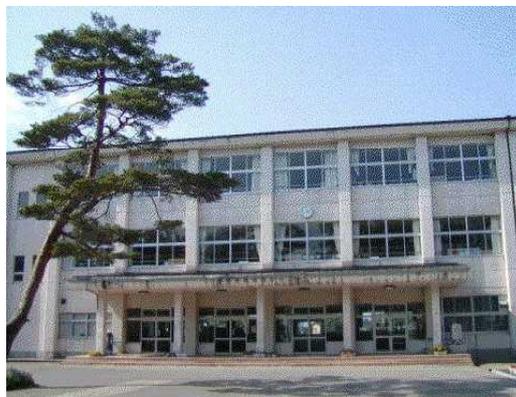
学校教育目標（目指す子ども像）

- よく学ぶ 学習で伸びる自分を実感している子ども
- よく考える こだわり、発想を楽しむ子ども
- よく働く すすんで役に立とうとする子ども
- 元気な子 心身とも健康に過ごす子ども

学区の概要・児童の実態

本校は、明治7年5月に新田繁人氏の家屋の一部を使用して創立されました。現在地に校舎を新築し、校名を泉田尋常高等小学校としたのは、大正14年10月です。その後は、萩野村泉田国民学校を経て昭和30年4月、新庄市立泉田小学校となり現在に至っています。

学区は、泉田駅から東、萩野方面への通りや泉田八幡神社を中心にした国道13号線沿線、塩野・柏木原など14の地区に及び南北に細長くなっています。



かつては稲作を中心とした農業を中心とする地域でありましたが現在は兼業農家が増え、会社や役所務めが多く職種も多様化しています。また、学区内に新興住宅街もあり都市化の傾向にあります。しかし、学区全戸（約800戸）による教育後援会組織や地区をあげての資源回収など、地域住民の連帯感が強い学区といえます。また、教育的関心が高く、次代を担う子ども達への期待と希望も大きいものがあります。

P T A活動については、現在も本校を含む新庄市立北部4小中学校でP T A連絡協議会を開催しており、親善球技大会や教育後援会などを合同で開催しています。また、授業参観などにも来校者が多く行事への協力や早朝作業など学校に対する支援・協力体制も整っています。

子どもたちは素直で明るい子どもが多く、学習にも意欲的に取り組んでいます。特に、学校田や畑での体験学習や観察には大変意欲的です。反面、自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の考えを理解し自分の考えを深めたりする力は十分にはついていません。縦割り清掃や登校班などを通して上級生が下級生の面倒を見ている姿が多く見られます。中間休みに元気に外遊びやマラソンをしたり、スポーツ少年団活動に積極的に参加し全国大会に出場したりするなど、運動に対する意識が高まっています。

(3) 昭和小学校

所在地：新庄市大字昭和660番地

創立年：昭和27年

児童数：18名

学級数：3学級（普通学級3）

教職員数：10名

E-mail：shouwa-e@city-shinjo.ed.jp

学校教育目標：「やってみたい！」に挑戦する子

—明るく かしこく たくましく—

学区の概要・児童の実態

本校は、新庄市北部に位置し、真室川町、鮭川村、金山町に隣接する地区です。大正時代には、軍馬補充用地として利用されていましたが、大正12年にこれが廃止となったあ



とは荒野となっていました。その後、大正14年に県連合青年団による「開拓講習所」が開かれ、荒野約62haが開拓されると、10月には皇太子殿下下行啓が行われ、翌年から、これを記念した本格的な開拓事業が始まりました。

昭和2年より5か年にわたり77戸が入植し、高橋猪一氏の指導の下、苦闘を重ねながらの畑作農村創りが開始されました。

昭和39年からは開田が始まり、昭和40年の柵沢ダムの完成以後、田の面積は大きく広がり、近年は、1戸平均6haの水田経営に合わせて、酪農や花卉栽培も行われるようになりました。全戸83戸中79戸が農業を営んでいます。

本地区は入植順に一年度から五年度に区画されており、それぞれの地区に公民館が設置され、集会・研修等が行われています。

さらに、平成5年には「昭和活性化センター」が竣工し、地区振興の拠点として多岐にわたり活用されています。

地域には、苦勞を乗り越える開拓精神が受け継がれ、地域、保護者の教育への関心は高いといえます。学校行事や総合的な学習の時間、野菜や稲の栽培活動等の教育活動に対しても、大変協力的です。子どもたちは、明るく素直で、何事にも一生懸命取り組みます。自分で学習や生活のねらいを決め、実行していくことのできる子どもたちが育ちつつあります。

(4) 萩野中学校

所在地：新庄市大字泉田字往還東398番地

創立年：昭和22年

生徒数：157名

学級数：8学級（普通学級6・特別支援学級2）

教職員数：21名

URL：<http://www.city-shinjo.ed.jp>

E-mail：hagino-j@city-shinjo.ed.jp

学校教育目標：1、活力みなぎり、自信と誇りを持つ生徒

2、希望を持ち、進んで学習する生徒

3、思いやり深く、他と積極的に関わる生徒

学区の概要・生徒の実態

本校は、新庄市北部に位置し、真室川町・金山町・鮭川村に隣接する地区内にあります。学区は、東部が奥羽山脈に接する萩野地区と、真室川町・鮭川村に接する昭和地区、さらに旧羽州街道（現国道13号線）に沿って細長く延びる泉田地区と、それぞれ趣を異にした3つの集落から形成されています。



旧街道や国道を中心に栄えた本地区は、地形的にも恵まれています。

本地区は、昔から稲作を主とした農村地域です。昭和元年度から戦前にかけて入植した昭和地区・塩野地区、または戦後に入植した柏木原や往還、あるいは泉田駅前地区などは比較的に専業農家が多くなっています。近年は経営の合理化が進み、リンゴ等の果樹、あるいは菌茸類など、多角的な農業経営が行われるようになりました。しかし、最近では、市内までの利便性が高まったことで、会社員や公務員との兼業農家が主流を占めるようになってきました。

地域や保護者の学校に対する関心は高く、大変協力的です。親子奉仕活動では、90%以上の保護者が参加しています。また、保護者や地域の教育力も依然として強く残っています。

子どもたちは、一般的に素直で何事にもまじめに取り組む生徒が多いといえますが、学習に対する意欲がやや不足していたり、農村部の割に様々な体験活動が不足していたりしているところも見受けられます。

また、本校は、児童養護施設の生徒を受け入れており、施設との緊密な連携を図っています。

2、対象校における児童生徒の課題

小学校における課題は、大きな集団での生活経験が少なく、少子化の中で、三世代家族という環境において手をかけられ育った児童が少なくないこともあり、次のような面に配慮した指導が求められています。

- ・間違いや、失敗を恐れず、自分で考え、相談し、協力しながら主体的に活動すること
- ・学校外での活動をする際も、礼儀やコミュニケーション力など社会性を身につけること
- ・与えられた課題や指示には一生懸命取り組み、学び合いもできるが、こなすことで満足してしまっているところがあり、もっと主体的に学習したりよく考えて広げたりすること
- ・無邪気で仲が良く下学年の面倒みもよいが、少人数のため人間関係が固定しがちで、狭い考えにとらわれがちであるため、正しさを最後まで主張したり、自己決定して行動したりできるようにすること
- ・合同で集団運動を組織し切磋琢磨する場面を仕組んでいるが、幅広くいろいろな種目を経験し、一段高い運動技能に触れたりすること
- ・子どもは素直で生活面でも逞しさを持つが、学習面で主体的意欲的に目標をもって学習すること、家庭と連携し学習の充実を図ること
- ・児童養護施設からの通学生徒も含め、近年、親のネグレクト等これまでとは異なる家庭状況の子どもが増加し、関係機関と連携した新たな対応が求められていること